

三誠
新商品発売

G-ECS PILEに
新口径3種が登場!

昨年秋より、ジー・エクス・パイルに新口径φ318.5、φ355.6、φ406.4が新たにラインナップされました。建築分野に、土木分野に、ジー・エクス・パイルの用途がますます広がります。

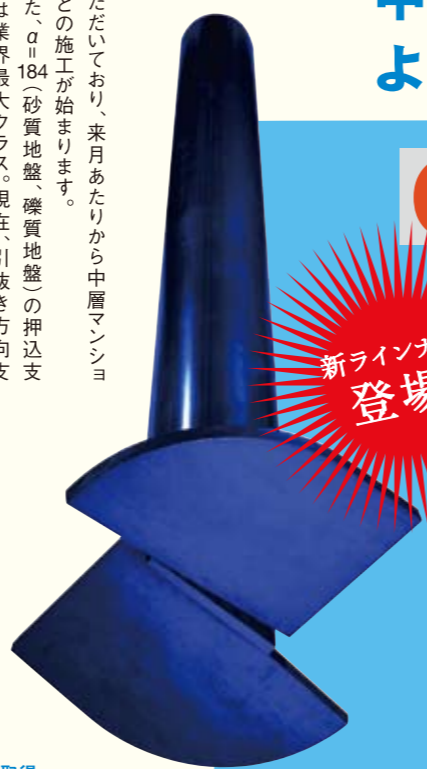
従来の杭径φ114・3〜φ267・4に、より大きな杭径のφ318.5、φ355.6、φ406.4が新たに加わりました。昨年12月日本建築センター性能評価を取得し、国土交通大臣認定を申請中です。

10階程度の中層建築物や、従来よりも規模の大きな土木物件の基礎に対応可能になったほか、これまで2〜3本の杭が必要だったところを1本で対応することも可能になり、コストダウンにも貢献します。すでに多くのお引合い

$$Ra = \frac{1}{3} \left\{ \alpha \cdot \bar{N} \cdot Ap + (\beta \cdot \bar{N}_s \cdot L_s + \gamma \bar{q}_u L_c) \psi \right\}$$

- Ra** 長期許容支持力 (kN)
- α** 杭先端支持力係数 $\alpha = 184$ ($5 \leq \bar{N} \leq 60$)
- N** 杭最先端より下方に1Dw、上方に1Dwの範囲の平均N値 (Dw: 翼部実面積 (Ag)と等価な円の直径)
- Ap** 翼部の有効面積 (㎡)
Ap = e · Ag (Ag: 翼部の実面積)
※ φ300以上は e = 0.97とする。

中層建築物に!
より大規模な土木物件に!



G-ECS PILE

新ラインナップ登場!
φ318.5
φ355.6
φ406.4

適用する地盤: 砂質地盤、礫質地盤
使用材料: STK400/490、SKK400/490
最大施工深さ: 41.50m (φ355.6以上の場合)

をいただいております。来月あたりから中層マンションなどの施工が始まります。
また、α=184(砂質地盤・礫質地盤)の押込支持力は業界最大クラス。現在、引抜き方向支持力認定の取得に向けて動いています。
さらにパワーアップしたジー・エクス・パイルを、今後ともよろしく願っています。

お問い合わせはこちら
03-3639-5226
(株)三誠 本社 営業部



日本建築センター性能評価 取得
国土交通大臣認定申請中
BCJ基評-FD0124-03

Specification

長期許容支持力早見表【砂質地盤・礫質地盤】(5 ≤ N ≤ 60)

許容支持力 Ra (kN)	杭径 Dp (mm)	φ318.5		φ355.6		φ406.4	
		5	10	12.7	12.7	12.7	12.7
N	5	124.45	248.89	9.5	12.7	9.5	12.7
	10	248.89	497.78	9.5	12.7	9.5	12.7
	20	497.78	995.56	9.5	12.7	9.5	12.7
	30	746.67	1493.34	9.5	12.7	9.5	12.7
	40	995.56	1991.12	9.5	12.7	9.5	12.7
	60	1493.34	2986.68	9.5	12.7	9.5	12.7

※Raは地盤から決まる許容支持力。

杭種早見表

杭径 Dp (mm)	(mm)	φ318.5	φ355.6	φ406.4
杭肉厚 t (mm)	(mm)	10.3	12.7	9.5
翼部有効面積 Ap (㎡)	(㎡)	0.4058	0.4228	0.5105
Agの等価円直径 Dw (mm)	(mm)	729.9	745.0	818.6
最大施工深さ ※ (m)	(m)	41.40	41.50	41.50

※LNaは施工長 L>100Dpの場合、長さ径比に対する低減として(1-(L/Dp-100)/100)を乗ずる必要があります。

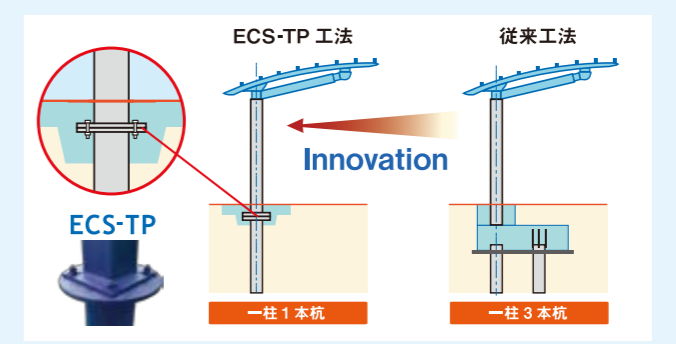
杭芯間隔とへりあきの最小推奨値

杭径 Dp (mm)	(mm)	φ318.5	φ355.6	φ406.4
杭芯間隔 (mm)	(mm)	1300	1300	1500
へりあき (mm)	(mm)	400	400	500

三誠の
開発へのこだわり

いまや三誠の主力工法になりつつある、鋼管杭トップ・ブレードジョイント工法ECS-TP。その開発は、三誠のこだわりが原点でした。雪国の駅前に計画された柱32本の屋根付きバス待合所。従来通りに設計するとφ165.2×7.1t×14.0m×96setの設計でした。ここで三誠のDNAが騒ぎました。あまり重くかさそうな構造物なのに杭本数が多すぎないか? コンクリート基礎の重量のために打たれた杭がほとんどは? 駅前だし工期もコストも掛かりそうだし。そこで生みだされたのが、コンクリート基礎を排し、上部構造物と杭を直接接続するというECS-TP工

法の発想でした。基礎がなくなり軽くなれば杭本数を減らせる上に、工期も短くなって相当のコストダウンが見込める、利用客にも迷惑をかけないだろうという目論見は見事に当たりました。1柱1杭で検討すると、杭工事原価は1,100万円→410万円の驚くべきコストダウン。工期も約1/4に短縮できたのです。それ以来ECS-TP工法は多様な現場で採用され、基礎工事に新たな可能性をもたらして。三誠は、「好奇心」、社会に貢献できる杭工法の開発にこだわり続けています。



常識を疑い、常により良いものを目指す。メーカーとしての三誠を支える開発のDNA。

第4回
「三誠セミナー」レポート

昨年10月、三誠セミナーを開催いたしました。第四回目の今回は、過去最多となる約70名の皆様にご参加いただきました。今回講師としてお招きしたのは、一般財団法人日本建築センターの安田保二郎氏。「構造判定審査のポイント」と題して、実務において有益かつ貴重なお話をいただき、大変有意義な時間となりました。



安田 保二郎 氏



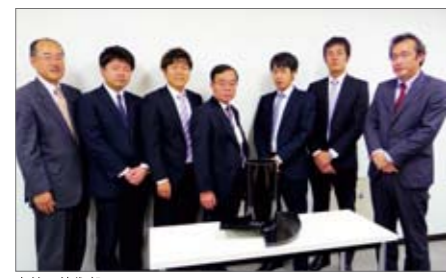
実務で役立つ講演に聞き入る受講者

営業所紹介 ③
技術本部
三誠の設計・開発を支える、技術部の底力に迫ります。

取締役 技術本部長
小林 俊夫

私たち技術本部は、若手中心のメンバーで日々業務を行っています。若いメンバーで構成されているため、バイタリティにあふれたチームです。技術本部の仕事は、大きく2つです。1つは、建物情報等をもとに、その建物に最適な杭の配置・杭径・杭種を提案する通常業務です。基礎の構造計算がわからないお客様にも理解してもらえよう、わかりやすく要所を押さえて対応することを大切にしています。さらに、設計者が気づかない、より最適な設計がある場合は、積極的に提案しています。

もう1つは、新工法や新技術の開発・研究です。三誠の商品開発はジー・エクス・パイルの開発当初から一貫して、技術本部が通常業務と並行して開発を行ってきました。これは、商品発表後にお客様からいただく疑問や要望に対して、実験状況も併せて説明することができるとともに、技術スタッフが、開発実験を通じて、「物が壊れる」という事実を経験できることが重要だとい



本社 技術部

お客様に満足していただけよう、真摯な対応と商品開発を続けます



西日本支店 工務技術部